	問三	問二	問一	題一問九	問八	問七	問六		問五	問四	問三	問二	問一	問題一	日午前	〇二四年度
「九島さん」と来たカラオケに「九島さん」のお母さんが付いてきていること。	おとなしいと思っていた「九島さん」がソファの上で熱唱していること。	こともできなかったから。せっかくの遊びの誘いを断りたくはなかったが、翌々日に出国を控えており、簡単に誘いにのる	a オ b エ C ア	工	実感を持ったり、そういった評価を他者から受けたりする機会を得ることができるから。勉強以外で何か秀でたものをもっている子どもが、自分には才能が備わっているという		ア	B 自一分一の一意一見一や一考一之一を一述一べ一る一こ一と一	A チーム ワー クを と る こ と	自分のすべての行動がそのままアイデンティティを作ると考えること。	「個性を磨かなきゃいけない」と無理をして、自分で自分の個性を潰してしまうこと。	誰かに「磨きなさい」と命令されて、義務のように磨く必要などないから。この世に生まれた人間は一人残らず全員、それぞれ個性を持っているので、	a 上 b イ		四科 国語 解答用紙 一	-度 普連土学園中学校入学試験 二〇二四年二月一日実施

座席番号

受験番号

氏

合計得点

名

問四

いじめられていて友達ができなかった「九島さん」

の友達になり、

遊びに誘ってくれたこと。

			七画		まだれ	<u>(5)</u>
のぎへん 九 画	$\sim$	4	十 五 画		にくづき	3
くさかんむり 九 画	さかんむ	2	六画		あなかんむり	
				]		問題五
3	わがる	こわ	5		(4) か た め	
③ やすっぽい	げ	かな	2		うまみ	問二
	ごかぞく	ごか	5		かぼそい	
<ul><li>③ 事務とい</li></ul>	どんぞこ	どん	2		まごころ	問一
						問題四
		こなゆき		10	じゅうおう	9
<ul><li>③ じょかよ</li></ul>			しな	7	こころよ	<u></u>
			刻	<u>5</u>	忠実	<b>4</b>
③ 故郷	3	上	頂	2	<b>童</b> 話	
						問題二
					ウ	問九
らないと思い込んでいたが、いつもの「脳内実況」で良いと思えるようになってもらうことを前提とした実況をしたことがなく、準備をしてちゃんとした実	いたが、いつものだとした実況をした	込を前で提	いと思い	\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	たから。これまで人に聞い	問 八
					オ	問七
られて、人と話すことが怖かったから。	て、 人	といじょ	ている」	「なまっ	小学生の時に	問六
う。「おたし」には「九島さん」のお母さんか思うように友	ら。 - おた し	はないかって	たわけでは	があった	人という意識があったわけで実が中継の取材のために割っ	問五
i			.	- / / / / / / / / / / / / / / / / / / /		-      - 
二〇二四年二月一日実施		→ 試 験	校入学	園中学	十	一〇二四年度
氏 名 合計得点	氏名	受験番		座席番		
		号		号		